

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	城東区
学校名	放出小学校
学校長名	大無田 信教

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・放出小学校では、第6学年 97名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- ・国語の平均正答率は67 pで、大阪市・全国の平均正答率をわずかに上回っている。
- ・算数の平均正答率は59 pで、大阪市・全国の平均正答率をわずかに上回っている。
- ・理科の平均正答率は53 pで、大阪市・全国の平均正答率を下回っている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

「書くこと」「読むこと」は大阪市・全国平均を上回っている。しかし「話すこと・聞くこと」については、大阪市・全国平均をわずかではあるが下回っている。国語科だけでなく、様々な教科や学校生活の中で、児童同士による主体的・対話的な学習活動を充実させていく必要がある。

[算数]

どの領域についても、大阪市・全国平均とほぼ同水準の結果となっている。基礎的基本的な学習内容の定着に引き続き取り組むとともに、グラフや資料から必要な情報や数値を読み取り、判断し、発信していく学習を充実させていく必要がある。

[理科]

A区分「エネルギー」を柱とする領域について、大阪市・全国平均と開きがあった。自然の中や日常生活、理科の授業において、疑問を持ったり問題を見いだしたりできるように学習を工夫する必要がある。

質問調査より

主に児童の自尊感情にかかる質問内容については、大阪市・全国平均とほぼ同様の結果が出ている。家庭・地域と学校とが連携しながら、子どもたちの健全な成長・育成について協働している結果とみることができる。また、いじめについても、日ごろの学級指導や道徳などの学習を通して、いじめを起こさない・許さない意識や雰囲気の向上に努めている。また「心の天気」や相談機能の活用を図りながら、子どもたち同士の関係を見守り、早期発見・早期対応に努めている。今後も子どもたちの声をしっかりと受けとめる校内体制の充実に努めていく。図書室の蔵書を充実させ、高学年児童が進んで本を読む環境整備に努めていく。

今後の取組(アクションプラン)

ICT機器の環境整備や有効活用に継続して取り組み、主体的・対話的な学び、協働的な学びの構築をさらに推進していく。児童自らが、課題を見つけ、考え、交流し、まとめ、発信していく深い学びを日々の授業でめざしていく。

学んだ知識や技能をもとに、「もっと知りたい」「どうしてだろう」などの知的好奇心を大切にし、図書資料やインターネットを活用し、調べたり深めたりすることに取り組める時間の工夫も進めていく。

また、現在の子どもたちを取り巻く社会環境において、インターネットやSNSについての正しい知識や使い方を学ぶことは欠かせない。家庭との連携や啓発も大切にしながら、安全安心な学校生活の実現に引き続き取り組んでいく。